

平成 29 年度(後期)海外渡航旅費助成金成果報告書

北海道大学大学院理学院 修士課程 2 年

松澤 仁志

日本地震学会より海外渡航旅費を助成していただき、2017 年 12 月 11 日から 15 日にかけて米国・ニューオーリンズ市にて開催された AGU Fall Meeting 2017 に参加して参りました。その成果についてご報告させていただきます。

今回私は、「Multi-mode phase speed measurements with array-based analysis: Application to the North American continent」というタイトルで、アレイ解析に基づくマルチモード表面波の新たな位相速度計測法およびモード毎の波形の分離手法について、ポスター発表を行いました。当初予想していたよりも多くの方が私のポスターに来て下さいました。英語でのコミュニケーションに苦戦する場面もありましたが、何とか強調したい結果について伝えることができましたと思います。国外のプロの研究者と 1 対 1 で議論し、研究へのアドバイスをいただけたことは大変有意義でした。また、説明後に、たとえ社交辞令であっても、お褒めの言葉を頂けたことも、これまで行ってきた研究活動について評価して頂けたような気がして大いに励みになりました。

私にとって、これが初めての海外での国際学会参加でしたが、その規模の大きさもさることながら、私自身の研究分野でもあるグローバル地震学をはじめとした、地球内部ダイナミクスに関する研究発表の多さに、国内学会との違いを強く感じました。近年流行の Bayesian inversion を取り入れた研究発表も多く見られたほか、アラスカやアフリカ、南極などといった様々な地域の 3 次元深部構造を調べた発表もありました。国内学会ではあまり目にする機会のない研究発表は、大変興味深く勉強になりました。一方で、自分の研究内容と被っているものはほとんどなく、世界的に見てもユニークな研究を進めていることを再認識し、この点については自信を深めました。

海外の学生(と思われる方々)による発表も数多く目にしました。単に面白い研究を行っているというだけでなく、ネイティブであるかどうかに関わらず、流暢な英語で質疑応答・議論する姿は、私の目にはとても眩しく映りました。もし私が将来研究者となった際に、彼らが研究仲間や競争相手になると考えると、自分はまだまだ未熟であり、今まで以上に勉強し成長していかなければならないと、一層身が引き締まる思いです。

最後になりましたが、今回、一大学院生として世界の最前線で発表できたことは貴

重な経験になりました。自身の発表スキルへの反省も含め、多くのことを学ばせていただきました。また、今後の海外留学を現実的に考える良い機会にもなりました。今回の AGU 参加をご支援いただいた日本地震学会及び関係者の皆さまに、心より深く感謝申し上げます。ありがとうございました。